

2013.03.12

「TPP は近代合理主義との対決だ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は3月12日、火曜日です。

実はB型インフルエンザに罹っており、本当でしたら寝ていなければならないのですが、月曜日からTPP対策委員会第2グループの会議があり、本日火曜日は朝から役員会があったため、薬を飲んで闘っています。また、明日水曜日の20時から、TPPの会議があり、納得がいくまで議論を致します。私は金融サービス(かんぽ、ゆうちょ、共済)についての委員会である第2グループの主査を担当しています。また、ISDS (Investor State Dispute Settlement - 投資家対国家の紛争解決) についても議論をしています。

そこで分かったことは、私が何度も申している通り TPP については依然としてメリットが見えないため交渉参加反対はもちろんですが、TPP だけではなくアメリカとの二国間協議の方が大きな意味を持つということです。TPP 交渉参加にあたり、我々自民党は国益の観点から条件をまとめました。第2グループにおいても ISDS は TPP から外すことを条件にすべきだ、という議論が出ています。

そして、特に議論されるのが金融、共済についてです。農協、郵便局にしても、本来有利な条件で業務が行われているわけではありません。長い間業務が行われたため、支店網があります。しかし、外資からするとこの支店網が障壁になるため、参入しやすいようにすべきだという主張がなされます。しかし、

これは間違いです。そもそも、生命保険分野では外資のアフラックが、がん保険において圧倒的なシェアを持っています(平成 20 年度で 77.2%)。アメリカを含め、全世界の利益の大半を日本で稼いでいるのに、さらに何を求めるのでしょうか。つまり、外資保険会社からすれば取れるものなら何でも取ってしまおうという理由から、ゆうちょ・かんぽの支店網を使って自分達の保険を売りたいのかもしれない。そこで、私が問題にしたいのは、**TPP** を始めとする自由貿易協定、戦後ひいては 150 年前の日本の開国から、ずっとアメリカが要求してきた門戸開放についてです。門戸開放をすることで自分達と同等の条件で競争し、取れるものは全部取っていくという、ある意味で経済帝国主義的な思想を帯びています。そして、彼らの思想の根底には、次のようなものがあります。それは、経済帝国主義的な、アメリカの建国における開拓精神を起源とする思想にもとづいた行動の結果、日本だけでなく世界中から利益を獲得するようになり、後進国において先進国が自由な貿易・投資の環境を作ることによって、投資した本国の企業も利益が上がるし、後進国も投資により経済が豊かになるので双方ともに **Win-Win** である、という思想です。

ところが、後進国はじめ、他国や日本もアメリカ型のビジネスの基準を望んでいるとは限りませんし、様々な軋轢が生じてきます。特に、かんぽ・ゆうちょについては保険料と補償の関係では外資より効率が悪いかもしれません。一方、外資のサービスは保険料が安くてまずまずの補償が得られるので効率が良いということになるでしょう。それが、外資だけでなく効率のいい民間に仕

事が集中すると、どうなってしまうのでしょうか。かんぽ・共済が生命保険に置き換わってもたいして影響は受けないのですが、問題は運用元が農協・郵便局であり、効率が悪い部門であるからこそ、たくさんの人が雇用されていました。たくさんの雇用のお陰で地域が維持されていたのです。今まで私が申し上げてきた通り、効率の追求は必ずしも良いこととは限りません。効率だけを追求していくと、都市部に人が集中して生活する方がよりエネルギーが少なく、よりスピーディーに物事が決められ、快適な都市空間によって生活を楽しむことができ便利です。しかし、必ずしもそれが良いとは限りません。例えば、地震・津波などの集中的な大災害が起きた時、とてつもない被害が都市部に起きてしまいます。人々がまばらに住んでいる方が、被害が少ないのです。それだけでなく、都市部以外のところで水・空気・食料など、我々の生活に一番必要なものが作られています。それらを全て効率のいいところに置き換えていくと、雇用がなくなるだけでなく、国土も失われてしまうのです。

かつて 150 年前、アメリカが日本にやって来て開国を迫った時、我々の先人は No と言って、一年後、再度来るようにとそのまま開国の条件を飲みませんでした。そして一年後、彼らの国力を考え、開国せざるを得ない状況になると、無知の外交によって不平等条約が結ばれ、日本は散々な目に合いました。私が感じているのは、まさに 150 年前から続く西洋の東洋に対する進出、さらに言えばアメリカの日本、東洋に対する進出が、今なお続いているということです。かつてはそれに対して警戒して対応してきました。富国強兵策を採ることで自

分達の国を独立させ、何とか維持しようと努力していました。しかし、今の日本は、肝心の自分達の国を守るという根本的な部分が見ないまま、海外、特にアメリカからの効率化・経済合理性というルールへの押し付け要求に対して No と言えない状況になっております。そして、このことこそが現在の日本の一番の問題点であります。TPP のみならず他の自由貿易協定も含めて、本当に論じなければならないことは、我々の守るべき国の形です。国の形を考えた時には、TPP はもちろん、他の自由貿易協定も含め、なかなか諸手を挙げて賛成はせず、懐疑的になるのは当たり前だと思います。ところが、守るべき国の形を考える人は、本当に少なくなってしまいました。私と同じように TPP に慎重な立場を取っていらっしゃる議員は圧倒的に多いですが、自由貿易協定は避けられないものだという空気が日本全体に蔓延していると感じてしまいます。

今回、安倍総理がどのような判断をなさるのかは分かりませんが、今我々が置かれている状況は、幕末の延長線上にあるのです。自分達の国柄よりも外圧に弱い、西洋の力によって効率化、自由化、もっと言えば経済合理主義に巻かれてしまう日本人の弱さ、愚かさを感じてしまいます。私は最後まで徹底してこのような問題を追求していきたいと思っております。明日も 20 時から TPP 対策委員会が開かれるので、インフルエンザを患っている私には大変ですが頑張りたいと思います。本日もご覧になっていただきありがとうございました。